



## 春のお彼岸

固く凍えていたフキノトウも  
春の陽を浴びてふっくらと膨らんできました。  
ようやく春が来るなあと思ったり、お寒いと思ったり  
ちょっと気をゆるすと、体調も崩れやすい日々です。  
皆様お変わりありませんか。

梅や椿、サンシュに土佐ミズキ、花々が咲き始める今月は、春のお彼岸を迎えます。  
今年は3月21日（水）の春分の日を中日とし、  
前後7日間3月18日～24日がお彼岸となります。

お彼岸は、私達仏教徒にとって、  
「日頃忙しくてなかなか仏道精進できないものの、  
せめてこの一週間は仏様の教えを守り、心の修行をしましょう」という期間です。  
この7日間、自分なりに仏様の教えに沿った生活を送り  
善いおこないを積むことで、ご先祖様への功德とします。

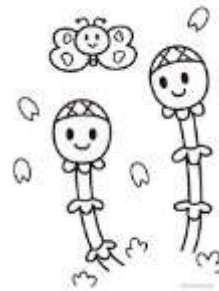


春のお彼岸に取り組みやすい修行として、  
ここではいつも「無財の七施」をご提案しています。

- ①やさしいまなざし
- ②にこやかな顔
- ③おもいやりのある言葉
- ④おもいやりのある行い
- ⑤おもいやりのある心配り
- ⑥ゆずりありの心
- ⑦気持ちのよいおもてなし

「気持ちのよいおもてなし」と聞くと、  
仰々しくお金をかけて何かするように思われますが、  
普段皆様はどんなおもてなしをされていますか？

「一つあれば事足りる 鍋の米をとぐ」  
これは貧乏乞食で俳句を作り続けた種田山頭火の歌です。  
山頭火は、ゆがんだたった一つの鍋で米をとぎ、  
そのとき汁で茶わんを洗い、雑巾をかけ、  
最後にその水を裏の狭い畑のわずかな野菜にかける暮らしぶり。  
山頭火と無二の親友である大山澄太さんは、  
山頭火の住む其中庵を訪れた時のことをこう語っています。



「勤めも儲けもせず、無論財産のないわしは、  
人から与えられたものと、棄てられてあるものを拾ってゆくほかない。  
この鍋は山口の病院の裏に投げてあった。  
この七輪は小郡の掃溜（はきだめ）にあったのだよ」と、山頭火。

「それはひどいね、汚いものでわしに食べさすんだなあ」と、私。

すると山頭火は、「君がそう言うであろうと思って、灰をつけてよく洗ったうえで、  
日光消毒しているから安心したまえ」と



お彼岸を迎えます。  
お墓にあるのは、花筒と湯呑、線香立て。  
亡き方にどんなおもてなしができるでしょうか。  
真心が気持ちよく伝わるようなおもてなしをご供養し、  
丁寧にお経を唱え、手をあわせたいものです。

# 大智寺だより

平成 30 年 弥生  
Vol.93

発行所

## 大智寺

岐阜市山県北野  
668-1

電話：058-229-1532

《Mail》

hybsr245@ybb.ne.jp

《ホームページ》

大智寺

検索

<http://www.daichi-ji.com>

当紙は、大智寺本堂及び墓地  
の水小屋にてご自由にお取り  
いただけます。  
又、当寺ホームページにて  
過去すべての紙面をご覧いた  
だけます。ご活用ください。

2月号発行部数  
200部

ご愛読  
ありがとうございます

## 本堂前の階段を修理

本堂正面の外階段が雨風を受けてかなり傷んできたので、  
2月下旬に修繕をしました。  
どなたでも上がりやすく、お葬儀の際に重い荷物も搬入しやすいよう、  
一段一段幅広に作られた階段です。

杖を使われる方や、膝の痛い方にも優しい出入口であればと思い、  
滑りにくいよう木材を材質に使ってあります。  
今後のお寺のあり方を考えると車いす対応にしたいところですが、それはなかなか難しいようです。



## 春の托鉢のご案内

広く地域全体の布教に取り組むため、  
お近くの三輪・藍川地区の約10ヶ寺ほどのお寺が集まり  
宗派を超えた「報聖会」として、毎年春と冬に托鉢を行っています。  
今年の春の托鉢は、3月26・27・28日を予定しております。

大智寺周辺の托鉢予定日は、3月28日（朝9時～11時）です。  
出屋敷、北野、西山、門屋をみんなで手分けして回ります。  
ここで集められた浄財は、歳末たすけあい募金や檀信徒大会に  
使わせていただきます。

どうぞご協力賜りますよう、よろしくお願い致します。

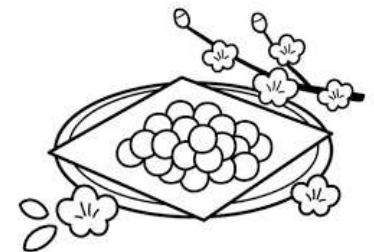


## どなたでも参加できる 大本山 大接心（おおぜっしん）

臨済宗妙心寺派では、毎年坐禅をもとに仏教の布教活動を行うため  
「大本山 大接心」を開催しています。  
第19回目の今回は大本山・東福寺で行われます。

1236年、摂政 九条道家が建立した臨済宗の大本山東福寺は、  
奈良の東大寺、興福寺の二大寺から1字ずつ取って命名されたそうです。  
紅葉の名所として親しまれていますが、本坊庭園は国の名勝に指定されており  
京都の観光スポットとなっています。

そんな贅沢な環境の中、坐禅経験の有無に関係なく、  
広くどなたでもご参加いただける坐禅の機会です。  
ご興味のある方はぜひ坐禅専一、己事究明に取り組んでみてはいかがでしょうか。

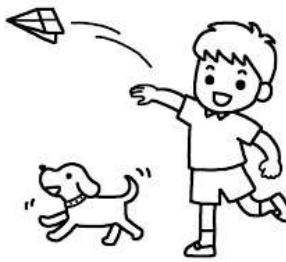


日時：平成30年4月21日（土）午後1時受付  
4月22日（日）午後1時解散（1泊3食）  
内容：坐禅・提唱・講演・食事作法  
提唱：東福寺管長 幽松軒 原田融道老師  
参加費：大人 10,000 円・学生 5,000 円  
持ち物：雑巾一枚・夜具・洗面具・筆記用具・スリッパ  
定員：110名（定員になり次第締め切り）  
参加資格：中学生以上

**申込方法**  
ハガキに住所・氏名・電話番号・年齢・  
性別・坐禅体験有無を記入し、  
送付してください。

**送付先**  
〒616-8035  
京都市右京区花園妙心寺町6-4  
妙心寺宗務本所内 教化センター  
「第19回大接心」係宛て

～ 日常を豊かに『発菩提心空拳章（通称：菩提和讃）』 ～



お経のやさしい和訳（和讃）から  
毎日の生活を 心豊かに

大智寺檀信徒日課經典  
31 ページより

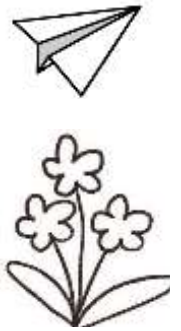
④1

「おや こうこう きみ ちゅう きょうだいふうふつまじく  
親に孝行 公に忠 兄弟夫婦睦じく」

「母の手」

夜半目覚めて  
廊下をこちらに近づいてくる 静かな母の足音を聞くことがある  
それを空耳と知りながら  
ふすまがなお静かに開けられて  
母の手が 私のふとんをかけなおす気配を 感じている

母の愛は  
母が逝ってもなお 寒い夜の私をあたために来る  
白髪の 老いた母の 細い手  
(高田敏子)



目をつむって耳をすませば、今は亡き方々の余韻が心の中に生きていることを感じます。  
生きている間はなかなか素直に「ありがとう」と言えないもの。  
せめて、できる限り穏やかに身近な人たちと暮らしたいものです。

今更のひまわり

お雛祭りを迎えようとしています。皆様いかが  
まだ予断許さぬ寒さが残ります。皆様いかが  
お過ごしでしょうか。

ばばたと彩りもゆとりもなく過ぎていく  
我が家ですが、春に向けて何か楽しみをと思  
い、ヒヤシンスの水耕栽培キットを購入し、  
毎日愛でてきました。まだ花は咲きませんが、  
球根から芽が出て根が出る様子が面白いのか  
2歳児も食いついて見ている（笑）

ヒヤシンスは冬の厳しい寒さにさらすこと  
で、美しい花を咲かせるそうです。そんな姿  
を見てみると、等しく春を迎えるようできて、  
どうも自分とヒヤシンスでは「春」の重みや  
喜びが違つように感じられます。

「精出せば凍る間もなし水車（みずぐるま）」  
松木珪琳

凍てつくような日々、野菜は葉や根に多く  
の糖分を溶け込ませ、精一杯生き延びる工夫  
をします。その結果として甘い寒じめ野菜と  
なります。振り返ると自分はいはいて精出す  
こともなく、生暖かい暖房の中でだらだらと  
冬を越してしまつた気がします。

野にも里にも春がくるこの季節は「山笑つ」と  
言われます。実りも花も期待できない自分  
の軽い春を恥じつつ、いつか人生の厳しい冬  
を乗り越え、山と同じように笑える本当の春  
を迎えてみたいものだなと思つたりします。

～ シリーズ いますぐできる精進の味 ～

♪ お寺のぶきっちゃんでも簡単に作れた ヘルシーなお味 ♪

春一番の味 よもぎ生麩

- ① 鍋に酒 100cc、みりん 100cc、醤油 100cc、砂糖小さじ1 を  
入れて火にかけ、沸騰したら冷ます。
- ② 生麩は1cm 幅に切り、冷めた漬けだれに1時間つけておく。
- ③ 1時間後、生麩の水分を適当に拭いて、フライパンに油を引き中火で焼く。
- ④ 裏表ともにこんがり焼いたらできあがり。

生麩はもちもちとした食感がたまりません。よもぎを練り込んだ生麩を  
軽く漬けて焼くだけのお料理ですが、春になると食べたくなります。  
ヘルシーなタンパク源なので、日々の献立になかなか活躍してくれます。



♪ 月に一度はお寺まいり ♪

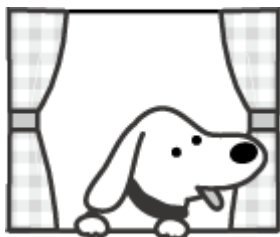
初心者 大歓迎  
東日本大震災物故者追善供養  
毎月 第四日曜日  
定例写経会

今月の日程

3月25日(日) 一回 500円  
(朝8時~9時) (内300円は義援金)  
要申込

2月写経会 備忘録

まだまだ底冷えする2月の写経会。今回は「あたごやま」という落語を楽しみました。谷底に飛び込んでも欲しいというような執着心を誰しも持っています。煩惱を捨て去るなんて、なかなか一朝一夕にはできませんが日々自分の心と向き合って修行したいものですね。今日は黒豆きな粉餅とあわ雪で一服しました。



お釈迦様が生きていた頃  
あんな人、こんな人

第十二話 「お花のおつかい」



春になるとたくさんのお花が売られます。  
色とりどりのお花にうっとりするのは、今も昔も変わりません。  
今回はお花が大好きなワンサという国のお后様、サーマーヴァティーさんの侍女のお話です。

その侍女の名前はウツラーさんといい、  
いつもお后様のおつかいで町までお花を買いに出かけるお役についていました。  
お后様からお金を預かっておつかいに出かけますが、  
お金の半分だけ使って、もう半分は自分の懐に入れていました。

今日もいつもと同じように花を買いに町まできました。  
花屋さんは自分たちの組合でお釈迦様の法話会を持ち回りで開いていました。  
「今日はうちのお店でお釈迦様のお話があるから、あんたも聞いていったらどうだい？」  
と花屋の主に声をかけられ、ウツラーさんは初めてお釈迦様のお話を聞きました。

法話を聞いて今までの悪い心が拭き取られ、ぱっと晴れた心地になったウツラーさん。  
王宮に帰ると、お后様のお部屋で花を生けながら今までのネコババを包み隠さず白状しました。  
すると、それを聞いたお后様はとがめることなく  
「お釈迦様はどんなお話をされたのですか？皆の前で教えてください」とせがまれました。  
それ以降、ウツラーさんは法話会に出てはお城のお后様や女官たちに教えるようになりました。

ご自宅で お寺で 市営斎場で 営む  
家族葬

ご家族・ご親族のみの家族葬をお考えの場合、  
ご自宅や市営斎場を会場に営むことができます。

また大智寺を会場にお使い頂くこともできますが、  
その場合、指定の葬儀社をお寺でご案内致します。  
必ず前もってご相談ください。

家族葬をご検討される場合は、  
葬儀社のこと、葬儀会場のことなど含めて  
まずはお寺までご相談ください。

完全個別永代供養墓

1区画：38万円～  
(墓石代金含む)

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方が  
いなくても、お寺がご供養させて頂くお墓です。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦・ご家族一緒に  
ひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。  
永代にわたり、他の方のお骨と混じらないことから  
「完全個別永代供養墓」といいます。  
詳しくは、ご見学を含めてご説明しますので、  
ご予約の上 ご来山ください。